

# 学校法人 滋慶京都学園 京都医健専門学校

平成29年度自己点検自己評価(平成29年4月1日～平成30年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	御意見
		4:適切に対応 3:ほぼ適切 2:やや不適切 で課題が多い 1:不適切			
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3.6	学校法人滋慶京都学園 京都医健専門学校は、学校法人滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通して社会に貢献する」ことをミッション(使命)としている。	(※1)「学校法人滋慶学園グループ」昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高等学校の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼)を實踐することで、理想の教育実現を目指す。	それぞれの業界で卒業後、即戦力となる人材を育成されている。保護者としてとてもありがたい。
	1-2 学校の特色は何か		「3つの建学の理念」(「実学教育」(※2)「人間教育」(※3)「国際教育」(※4))を實踐し、「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高等学校の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼)を得られるように学校運営をしている。	医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで77校を有する。	小林学校長が先頭に立って「人間教育」を考え実行されているのが、印象的だった。建学の理念があるからこそ、道に迷わずまっすぐ進めるのだと改めて思った。私も「克己心」を持って日々を過ごそうと思った。
	1-3 学校の将来構想を抱いているか		建学の理念に基づき、京都医健専門学校は、『スポーツ・医療・福祉・美容分野で、人に喜びや感動を与えられる「即戦力」となる人材育成を目的として学校運営をしている。	現在、スポーツ・医療・福祉・美容業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。職業の現場で求められる知識・技術の高度化や多職種との連携、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、1年制課程から4年制課程までの10学科を設置し、『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成をめざしている。	開校して13年経つと聞き嬉しく思う。業界の代表として、委員会に加えさせてもらっているが、卒業生が鍼灸界でしっかり働いているところを実際に見る。学校としての目的は達成できている。
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3.6	諸環境の変化に対応できるように、運営方針を事業計画にまとめている。滋慶学園グループとしては毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。	(※2)「実学教育」スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』により人材育成を行う。	「3つの理念」「4つの信頼」は立派ですが、この中のいくつかを實踐できるかである。特に建学の理念に基づき「即戦力」と考えておられるのなら、今の理学療法教育の中では難しい。これができるときは国試を意識しなくなると無理である。リーダースhipも同様のことがいえる。
	2-5 事業計画は定められているか		それを受けて、短期事業計画を作成するが、毎年作成しているこの事業計画書が京都医健専門学校における運営の核となるものである。	(※3)「人間教育」開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダースhipがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。	4つの信頼にプラスにもう一つの信頼が必要ではないか。それは各学科における「対象者への信頼」である。理学療法科でいうと「患者さん」、「利用者さん」になるかと思う。学生の時期よりこの対象者の信頼を得るための教育は4つの信頼以上に大切ではないかと思う。
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか		事業計画は、法人理事会・評議員会の決議を受け、承認を得ることになっている。	(※4)「国際教育」コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。	建学の理念は素晴らしいと思う。欲を言うなら、卒業生を送り出すことで、市民や国民の信頼を得るということまで含まれるとよいかと思う。
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか		それを受け、本校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修を行っている。	各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。	教育理念として「3つの建学の理念」及び「4つの信頼」といった柱が確立されており、それに基づいた学校経営がなされていると理解している。他校では身につかない、専門的な技術や知識を学生に与えるとともに適切な人間関係を構築できるスキルを身につかせ、社会に貢献する優秀な人材の輩出を期待する。
	2-8 意思決定システムは確立されているか		事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。	学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。	3つの理念、4つの信頼をもとに外部の学校や業界の方々との連携を取り合い実習に出たりと様々な取り組みをされている。特色のひとつでもあるスポーツ科学科も1年、数年ごとにより理念を具体化するような仕組みや取り組みがあり、+2年計画や留学プランもとても興味がある。
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点に立って行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが組織上の役割・位置づけを理解できるようになっている。	理念が明確に示されており、外部から見てもご尽力がよく理解できる。言語聴覚科は2年制で期間が短い、「地域の信頼」につながる取り組みにも参画していただくと、より充実した内容に到達されるのではないかと思う。	何年か連続して参加させて頂いていますが、毎年同じ理念や信頼をお聞きし、そこに対してどうやって進めていこうかを考えておられるかを強く感じる。	
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの五か年計画の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。また滋慶学園グループ共通システムである専門学校基幹業務システム(ASシステム)により、学生情報や総務情報、財務情報などの管理を行っている。	学校の各部署でのセルフマネージメント力をより一層充実してほしい。	近年、医療業界では多職種連携によるチーム医療が重要視されているが、貴校は多種のメディカルな学科を持つ特色を活かし、臨床を見据えた連携シミュレーションを取り入れた教育を実現していることに驚いた。学生のうちに他学科の資格がどのような業務をしているのかを学ぶ機会はなかなかないことが多く、非常に有意義と思われる。できれば貴校のすべての学科で職種間連携のシミュレーションが実現するとおおい。	
					教育理念・目的・育成人材像が明確に定められており素晴らしいと思う。ただ、即戦力となるために、3つの理念に基づく教育に加えて「産学連携教育」をより強化出来ればと思う。
					社会人としての基本的な資質を備えるための指針が明確に取り組みされており、理想的だと思う。

<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-19 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3.2</p>	<p>職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考慮しており、教育課程編成委員会を年2回開催。業界の動向・変化を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できるように取り組んでいる。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に医療教育部会・スポーツ科学教育部会・福祉教育部会・美容教育部会等で研究、見直し等を行っている。</p> <p>カリキュラムは学科(専攻)に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を年2回実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができています。</p> <p>成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、全面的に支援を行っている。</p>	<p>京都医健は、平成17年の開設以来、教職員の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験合格率100%(入学者＝合格者)</li> <li>2. 専門就職率100%(就職者／専門分野就職者)</li> <li>3. 退学率0%(入学者＝卒業生)・留年者0名を掲げ、その達成のために3つの重要なシステムを構築している。</li> </ol> <p>○第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。</p> <p>入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、中途退学率低減・モチベーション向上を果たしている。また、ポートフォリオを用いて、生活および学習習慣を作ることから始めている。</p> <p>○第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学連携教育システム」である。</p> <p>これには、次の6つが挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①企業プロジェクト</li> <li>②ダブルメジャー・カリキュラム</li> <li>③業界研修</li> <li>④海外実学研修</li> <li>⑤特別ゼミ</li> <li>⑥キャリアセンターである。</li> </ol> <p>○第3のシステムは、国家試験・各種資格試験全員合格のための各種試験合格対策の構築である。</p> <p>また教育システムのさらなる開発のため、滋慶グループ各校で構成する「医療教育部会・スポーツ科学教育部会・福祉教育部会・美容教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上化を図っている。</p> <p>主な研究内容は、①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④教職員研修(FD研修) ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業研究の運営 ⑦国家試験・各種資格試験対策等である。</p>	<p>クラスによって入学時からかなりの中途退学があると聞き、不安である。中途退学率低減に取り組んでおられるとは思いますが、今一度対策をお願いする。</p> <p>入学前から内的動機づけに繋がるようなプログラムがたくさんあるのだと知れた。ポートフォリオ等で、学生と教職員とのコミュニケーションが図れることはとても良いことだと思った。項目が多岐に渡るので大変であるが、建学の精神に沿った教育がなされている。</p> <p>柔道整復科において「科学的裏付けを持った確かな技術・知識」と「豊かな人間性」を有し、真の「医の心」を持つ柔道整復師の養成を目的とし、3つの「基本理念」をあげて教育をされている。素晴らしい。カリキュラムの改定により臨床実習が必要になるが、公益社団委員会として全面的に協力させて頂く。保険関連の指導等も協力も行う。</p> <p>多職種連携協働・KISA京都医健スポーツ現場アカデミーを29年度に実施され質の向上を図っておられる。</p> <p>卒業後、鍼灸師として活躍するための力とプライドを持てるよう学生に意識付けがしてほしい。</p> <p>国試合格率は鍼灸科において全国平均(約60%)大きく超えていることは他学校に比べても非常に優秀である。</p> <p>理学療法科は目標を少し下げてもよいのではと考える。国試は90%でも良いが、入学者のストレート卒業も90%でと考える。産学連携教育システムを考えるなら、地域をもっと学ばないとうまくいかない。FDはしっかり行ってください。</p> <p>理学療法士として参加をさせて頂いている。平成28年度国家試験は96.6%であったと思うが、平成29年度は80.0%で厳しい結果であったかと思う。結果の原因分析をしっかりと頂き、再度よい結果の出せる学習方法を考えていく必要があるかと思う。教員の先生方におかれましては大変かと思うが、宜しくお願いをしたい。</p> <p>PDCAサイクルを実践するうえで、目標設定は必要不可欠であり、「国家試験合格率100%」、「専門就職率100%」、「退学率0%」等の目標設定は大変良いことであるが、これは開設以来の「努力目標」であり、毎年これらの目標を達成していくのは不可能に近いと思う。毎年の学校経営計画としての目標設定は「努力目標」に加えて「完遂(必達)目標」を設定しておかないと、自己評価する際にPDCAがサイクルとして機能しなくなるような気がする。目標達成のシステムはある程度確立されているであろうから、さらに適切な目標を設定することでより教育効果を上げていけるのではないのでしょうか？また、この評価シートを読ませて頂いた限りでは「産学連携教育システム」について少し分かりにくいので、何かの機会にまた勉強させていただきたい。</p> <p>教育到達レベルについては少し厳しくみていてもいいのではないかと思う。自分は在学中、2年という限られた期間の中である程度成績を残したが、全体で見たとき、学校側、先生側が「この程度の知識は習得してほしい」と思うところに達していない学生も多くなったように感じる。学力についてもそうかもしれないが、学生にカリキュラムや学校が期待している部分などを話す時間があっても良いかもしれない。</p> <p>言語聴覚科においては、教員数が少ないなか、充実した取り組みが行われており、敬服する。時間的余裕が少ないなか、多職種連携の科目にも取り組まれている点は、卒業後の学生にとって有益であると思われる。</p> <p>学生さんは能力もモチベーションも様々でそれぞれに合わせた教育を行うのはとても難しいと思うが、いろいろ工夫されている。学科を超えて行われているゼミの取り組みは面白いと感じた。</p> <p>貴校の教育は地域に密着し、地域住民の協力の下で実際の臨床を疑似体験できる体験学習も取り入れられており、地域の信頼を得るとともに、学生にも臨床実習前に実際の患者接遇を学ぶ貴重な機会を与えている点など、「即戦力教育」を意識した有意義な学習を取り入れているところを高く評価したい。これに関しては教員の企画力、行動力が大いに反映され、学校側も協力的であることから、学内職員の良好な関係が窺える。国家試験合格に向け、余裕を持ったカリキュラムや無駄のないスケジュールを作成することに尽力され、合格率に反映しているものと思われる。これには教員の綿密な面談などによる学力・メンタルケアにより、学生の資質にあった教育方針の立案に尽力されている点が窺える。</p> <p>学生のみならず教員の育成に関しても尽力されているものと理解しているが、学生数と教員の数のバランスや現場の教員の業務量などをその都度フィードバックしつつ確認し、教員に過剰な負荷がかからないよう配慮願いたい。</p> <p>限られた時間の中でカリキュラムを消化していかなければならないので時間的にも難しいとは思いますが、「産学連携教育」において、より即戦力となる人材育成に向けた取り組みを各業界とより実施していければ良いと思う。</p> <p>美容全般における職種については近年ますます美容師などの国家試験においての資格所有者が優位になる傾向が感じられる。今後の課題として御校でも現在のトータルビューティー科の理念を守りつつ、国家資格をとれるような形態に進めていければよいと思う。</p> <p>作業療法科における精神科関係の科目担当講師に外部の方が多くように思われ、内部教員の努力も必要かと思う。</p>
<p>4 修学成果</p>	<p>4-20 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-21 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-22 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>3.0</p>	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、国家試験合格率100%(入学者＝合格者)、専門職種就職率(就職者／専門分野就職者)100%、退学者0名(入学者＝卒業生)・留年者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>まず、国家試験合格率では、対象8学科の内、100%到達学科は視能訓練科、言語聴覚科の2学科である。100%ではないが、全国平均を上回った学科は柔道整復科、鍼灸科、社会福祉科の3学科で、社会福祉科については4年連続で一般養成課程の中で全国1位の合格率を上げている。全国平均を下回った学科は理学療法科、作業療法科の2学科である。この2学科は国家試験対策重点学科として、滋慶学園グループ国家試験対策センターや教育分科会の協力も得て、H30年度の対策を取っている。</p> <p>退学率については昨年度4.9%から7.2%と悪化した。H29年度は特定の学科やクラスに退学者が集中する傾向にあり、ひとり一人の対応を大事にしながらチームビルディングの重要性を再認識させられた。H30年度において、特に重点学科にはチームビルディングを目的とした授業を取り入れる等対策を取っている。学習ポートフォリオやSSC(学生相談室)等、これまで効果の高かったサポートシステムは当然継続発展させていく。</p> <p>就職では、開校以来、最終的には就職希望者全員就職を達成しているが、専門職種就職率、就職対象者の向上も課題として取り組んでいる。</p> <p>例年最終的には就職志望者の就職率は100%となっているが、できるだけ学生の希望にあった良質の就職先を斡旋できるよう、その年の動向に合せた就職先と就職希望者のマッチングを図りたい。</p> <p>離職率については今年度は離職率調査を本格的に行い、まずは現状把握を行い、今後の対策を講じた。</p>	<p>数字では測れない修学成果もあると思うが、我々もプロの教育人である以上、数値目標を明確に持って教育に取り組む。</p> <p>もちろん、数値目標はあくまで「目標」であって、「目的(ミッション)」は「職業人教育を通して社会に貢献する」である。「社会に貢献できる人材を本当に養成できているか」を常に第一に考える。</p> <p>修学成果の1つである就職は年々、専門職種就職率が向上しているが、100%を達成すべく努力を続けている。</p> <p>また、できるだけ多くの学生に夢をかなえて就職するよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>退学率では、転科・転専攻等の個別カウンセリングも強化し、現状以上に体制を整え、1人でも退学者を出さない学校になるべく努力していく。</p> <p>今後は、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。</p> <p>卒業生に対して同窓会の開催、卒業教育も行っている。卒業生の動向把握、「卒業はゴールではなく、スタート」と捉え、3年以内の離職率0%という目標も掲げ、キャリア支援も行うようにしている。</p>	<p>国家試験、就職が保護者として一番気になる所です。最後までモチベーション向上、サポートをお願いしたい。</p> <p>努力を感じるが、昨年度苦戦した学科(理学・作業)は特に対策をお願いしたい。</p> <p>国家試験の合格率が全国平均より常に高い水準にあることは、学校力として素晴らしいことだと思う。退学率が増加してしまったことは残念なことだが、学生ひとり一人を大切にすることを学校全体でしっかり行っていけば必ず改善すると思う。</p> <p>QRコードによる離職率調査は、返信がしやすく沢山の情報が集まると思った。卒業生との密な連絡網の構築が必要と感じる。</p> <p>鍼灸師の質の低下が叫ばれる昨今、国家試験の合格率にばかり目を向けることについてはどうかと思う。学校の使命としては理解するが、質の低い鍼灸師が増えても困る。</p> <p>鍼灸科の内定実績においては鍼灸院整骨院だけでなく株式会社といった幅広い領域で就職できていることは、これからの学生には希望を持てることだと思う。介護分野にもっと広がっていければと思う。</p> <p>就職率100%を維持することは大変かと思う。また、卒業をしても就職を希望せず、独立開業も行わない卒業生の存在はとても気になる。</p> <p>就職に関して学生が希望する就職先が大切であるが、理学療法士はますますこの点が困難になる。病院・施設経営者は「質」を考えていない方が多く、「量」で満足している。これらのことを考えつつの就職先のマッチングが大事である。故にポストグラデュエーション教育の大切さを理解してほしい。</p> <p>退学者が平成28年度は減少したが、昨年度は残念ながら増加したようである。これへの対策は貴学におかれまして再度重要な課題であると思う。入学初年度より職種に関する教育を取り入れ、学生自身が目指す仕事をイメージできるよう、具体的な経験が必要と思う。</p> <p>就職率と同時に1年後の定着率も知りた。就職先の上司や経営者からの評価もあるとよいと思う。</p> <p>入学時のミスマッチを防ぐことは、どの校種においても大きな課題であり、義務教育でさえ「小1プロブレム」とか「中1ギャップ」などと言われ、重大な教育問題として取り上げられることがある。逆に考えると、自身が学校を選ぶようになる高校以上では、入学以前に学校側と学生が情報を共有することでミスマッチを防ぐ(減らす)ことが可能である。専門学校を含め、私学では学校経営上、ある程度の学生数を確保する必要があるのでは場合によっては適正を欠く学生を入学させざるを得ないこともあるかと思う。ただ、エスカレートすると授業規律の確保が困難となったり、結果として退学率を増加することに陥る懸念もある。ひいては優秀な学生の学習意欲を削いだり学校の評判が低下するなどの悪影響へとつながる。少なくとも京都医健に強い意志を持って志望する学生を見極め、質の良い教育を提供することで、優秀な人材を育成して頂くことを期待する。そういう面において、上述どおり、特に退学者減少の「完遂(必達)目標」を設定し、それを年々少ない数値にしていけるように取り組んで頂きたい。</p> <p>資格取得率については、日本で難関ともいわれる「日本体育協会公認アスレティックトレーナー」に毎年のように複数名(卒業生含め)が合格されていて、担当の先生方の取り組みの成果がうかがえる。退学率については諸事情によりやむを得ないこともあるが「思ってたのと違った」という学生はそれ程多くはないと思う。</p> <p>言語聴覚科の国家試験合格率100%は、成果として素晴らしいと思います。学生一人ひとりへのサポート体制が充実されていることが、好成绩の背景にあるものと推察します。卒業教育のプランも明示していただけると、より良いのではないのでしょうか。</p> <p>貴校の全学科の国家試験合格率や就職率は、キャリアセンターをはじめとした学生のバックアップ体制の充実の賜である。しかし、入学者数の増加により退学者、留年者が増えてしまう面もあるため、このフォローアップ内容は、やや前年度より後退している可能性はある。</p> <p>学習ポートフォリオは学生の生活リズムの改善や学習管理に有効とは思われるが、その内容は学生の資質や学習姿勢で大きな差があると考えられる。さらに学習ポートフォリオの運用に対する教員の負荷も考えられることから、これらの点は各学科で点検し、改善に向けた対策を協議していただきたい。</p> <p>新卒者の離職率は一般的に年々増加傾向にあると思われるが、個人的な印象としては、卒業し、国試合格まで行き着いた貴校の学生は在学中の様々な体験学習などにより、その職種の役割についての理解が根付いていると思われ、さらにキャリアセンターの尽力も加えて、他校よりは低いのではないかとと思われる。今後の調査結果に期待したい。</p> <p>学生本人の社会にむけての意識がもっとも重要だとは思いますが、教員側も単に授業を行うだけではなく、若年の生徒にむけて、いかに目標に向かって進んでいくかの精神力を培う指導が求められるように思う。</p> <p>卒業生の作業療法協会入会率の高さは大変評価できる。</p> <p>卒業生が将来的に臨床実習等の指導者になる事を想定した取り組みも必要かと思う。</p>

5	<p>5-24 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-30 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-31 卒業生への支援体制はあるか</p>	3.7	<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。しかし、支援はあくまでも支援である。支援しつつも学生の自立的行動を促し、卒業時には自主自立した職業人を養成することを目的とする。キャリア教育・生涯教育の観点から卒業後の支援についても継続するが、卒業後は社会人として相互協力できる関係を構築する。</p> <p>学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康等の分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。</p> <p>①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種進路指導などの支援をしている。</p> <p>②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。また、奨学金サポートを貸与・在学中・返還・卒業後と強化している。</p> <p>③学生相談については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にもSSC(スチューデント・サービス・センター)として臨床心理士が相談を受ける窓口を置いている。また、社会福祉科・精神保健福祉科の専門職の教員による対人援助ゼミを行い、カウンセリングだけでなく対人スキルの向上を図るゼミも開講している。</p> <p>④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック大阪が担当し、在学中の健康管理を支援している。また、臨床実習が必須の学科においては昨今問題になっている感染症対策として、全学生に抗体検査を行い、その結果に基づきワクチン接種を行うように指導している。</p> <p>また、課外活動については、学生の自主活動組織である学友会を組織し、学校が年間予算を計上し、担当者を配置・支援している。学生主催イベントである医健祭やスポーツ大会は学生主体で運営し、例年盛り上がりを見せている。また、クラブ活動では全国専門学校体育連盟主催大会においてテニス男子シングルス優勝や女子バレー部第3位等、広く活躍している。</p> <p>保護者との連携については、定期的に保護者会を実施し、学科スケジュールや卒業・進級規定についての説明を行っている。成績不良の学生へは事前に連絡を行い、保護者と学校が協力して学生をサポートできる関係性を構築している。</p> <p>卒業生については同窓会活動を年々活性化させており、昨年度は全学科で147名が出席した。今後も開業サポートや転職サポート等幅広くサポートしていく。</p>	<p>学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築もし、迅速な対応ができるように支援している。このような支援体制の結果、就職希望者は全員就職を達成している。</p> <p>即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また、教育課程編成委員会で頂いた意見を参考に業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業などの体制を確立している。</p>	<p>部活動の練習のため毎回遠い体育館まで時間をかけて出向いている。学校から近い体育館を定期的に借りられないものかと思っている。</p> <p>学習面だけでなくクラブ活動の指導や相談・支援も良好である。</p> <p>価値観が多様化する時代において、担任制により一人ひとりきめ細かい指導ができることは素晴らしいことだと思った。課外活動が活発に行われていることは、学校の価値として今後ますます重要な部分だと思う。</p> <p>貴校の学生支援は私の知っている他校より充実しており、学生一人ひとりに合ったサポートがされている。今後もこの体制を継続して授業についていけない学生が出ないようにしていきたい。</p> <p>企業説明会は学生にとって将来の展望になるので賛成です。早期離職に関して、中にはいわゆるブラック企業もあるので、学生ではなく企業に問題があることも考えてほしい。2019年度の学生募集が前年度より減ったとしても、現在の学校の取り組みであれば問題ないと思う。広報がしっかりプレゼンできるように外部から見ている。</p> <p>今後は就職相談が大切なものになります。また他校では荷重なアルバイト等、経済的問題で留年・リタイヤをよく聞く。この点はよく検討してほしい。</p> <p>学生支援については、他の専門学校等に比べると手厚いように感じます。そういった地道な対応が、京都医健の教育理念にある4つの信頼につながっていると思います。知識及び技術の伝達だけでなく、部活動等の特別活動に加え、カウンセリングなどの学生相談が人格形成の重要なポイントになっているのではないのでしょうか。進級や卒業の条件あるいは基準といったものが不明なので、その点については今後理解していきたいと思う。</p> <p>就職へのサポートも担任の先生方やキャリアセンターの方々が業界や企業とも連携をとり合い、学生一人ひとりに合った情報と企業先を紹介してくれる体制がある。学生がもっと積極的に使うよう仕向ければもっとよくなるはずである。卒業生へのサポートも資格取得への再挑戦、就職した先での悩み、転職の相談等、必ず親身になり助けてくれる先生がいる。そういう体制や関係が築けていると思う。</p> <p>国家試験に対応するためには、学力が不十分な状態で入学された学生さんの進路指導、社会性が十分育っていない学生さんへの人間教育などが、課題かと思われる。</p> <p>“支援しつつ学生の自立的行動を促していくこと”を目的とする、とあり、難しいことではありますが、大切なことと感じた。</p> <p>貴校の学生支援体制は非常に手厚い印象がある。特にメンタルケアに関しては、学内はもとより、学外での実習に際しても、学生の様子について積極的に把握し、状況によっては遠方であっても速やかに教員が駆けつける体制を取られており、学生と教員の良好な関係性構築にかなり尽力されていると思われる。</p> <p>保護者に対しても、学費に関するフォローアップや就学後のサポートも密に行われている。</p> <p>学生の健康サポートに関して、身体のみならず、メンタル面でも学内の連携により相談できるシステム作りがなされていることは評価したい。</p> <p>卒業生についてのサポート体制も充実していると思われるが、卒業生による在校生への学習協力などで自身の将来の仕事に対するモチベーション向上の機会を増やすということも検討していただければありがたい。</p> <p>外部講師の場合、授業以外では学生と触れ合う機会がなかなかないが、外部であるがゆえに、外部の視点から支援できることがあればとの想いがある。学生だけではなく、御校の先生方へもである。</p>
6	<p>6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか</p> <p>6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-34 防災に対する体制は整備されているか</p>	3.6	<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。</p> <p>学内の教育環境に留まらず、学外の環境(業界研修、学外演習、海外実学研修・臨床実習)も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。</p> <p>臨床実習については、遠隔地での実習も行っているのが現状である。学生が希望している遠隔地実習先は継続依頼しつつ、京都・滋賀の病院・施設とのつながりを重視し実習先を開拓していく。</p> <p>海外実学研修においてはH29年度は理学療法科・作業療法科・スポーツ科学科で参加率30～50%、視能訓練科・トータルビューティー科は参加者数や国際情勢等の問題もあり、実施できず、柔道整復科・鍼灸科においては参加率がかなり低いのが現状である。参加した学生の満足度は高く、内容に問題があったわけではないが、H30年度は動員率アップを図るべく、リニューアルを図る。具体的にはTB科は渡航先を学生が参加しやすい韓国に、柔整科・鍼灸科は中国からアメリカに変更する。</p> <p>防災訓練・避難訓練・救命講習等も計画的に実施しており、安全対策を日頃から啓発している。防災訓練・避難訓練については午前・午後・夜間と全学生が1回は参加できるように年3回実施している。京都市消防局の協力も得て、消火器訓練等も含めて実施している。また、同じく京都市消防局指導のもと、教職員は2年に1回は、普通救命講習を受講するようガイドラインを定めている。</p>	<p>オンリーワンを目指す本校にとって、教育環境である施設・設備・機材等は非常に重要な要素であり、それゆえ、どこにも負けない最新・最良のものを整備している。</p> <p>毎年、事業計画で計画し、予算計上の上、計画通りに購入・更新等を行っているが、これ以外の学外教育環境も教務部、キャリアセンター、国際部が一丸となって整備しており、これは本校の大きな強みと考えている。</p>	<p>災害が起きた際、地域の中心的役割として活動する為に常日頃からの準備がとても大切だと感じた。</p> <p>海外実習をアメリカにしたのは賛成です。逆にアメリカの学生を日本(京都医健)に招いて交流を深めると良いと思う。</p> <p>海外実学研修がどこまで重要なものか理解は出来ていないが、より多くの参加者を募るためには研修の中で習得できる技術などをさらに明確にするのはいかがでしょうか？</p> <p>海外研修の参加率が低い。観光が目的であるなら、学校が行う必要はないので、内容を充実させてほしい。</p> <p>スポーツ科学科の海外研修については時期が少し早いように思う。研修としての意味をより大きく持たせるなら、何もわからず入ってきて数か月・半年の1年次後期より、2年次になる前後の方が学生の意識も高くなってきて、より効果的であると思う。</p> <p>「即戦力」より5～10年後に1人前の業界人として活躍できる人材を育成してほしい。今、理学療法士の質の低下は大きな問題であるが、この問題を受けて、学校教育や教員の姿勢の見直しをしてほしいと考える。</p> <p>貴学を京都府理学療法士会としても利用させて頂く機会が多いのですが、勉学に集中できる校舎になっていると思っております。ただ分科会でも上がっていたが、年々経年劣化していく機器類、またロボット等々新しくなっていく機器類の設置につきましては、リースの利用など検討していく必要があるかと思う。</p> <p>臨床実習は学生にとって大きな負担でもあり、大きな機会でもありです。少しでも実りの多い実習になるように学校側の実習地へのフォローを大切にしていきたい。</p> <p>専門的な技術を身に付けさせるには、優良な施設・設備なくては達成できない。経費はかなりのものと思われるが、教育内容はもちろんのこと施設・設備の改善は、京都医健の教育目標達成のために不可欠なものである。入学した学生が最新の施設設備に触れ、より知識や技術を向上させていくことを期待する。</p> <p>施設については教育上は問題ないと思うが、学校の体育館やプールが専用であれば活動の幅が広がると思う。</p> <p>視能訓練科では業務に必要な機材が多く必要となり、その費用も高額であることが難点であるが、貴校の設備は他校に比べても非常に充実し、臨床でも比較的多く設置されている機材を学習で使用されているため、臨地実習においてもすぐに操作できる安心感を学生が持てる利点がある。</p> <p>学外の臨地実習先については、視能訓練科は遠隔地が多く、学生も慣れない独り暮らししながら実習をすることから、十分な学習時間が持てない危惧がある。特に貴校の近隣に実習の受け入れ先が少なく、実習先を取り合う他校の存在もあることから難しい部分があると思われるが、年々学生数が増加することも考慮すると、学生の負担を軽減するためにも、近隣での実習受け入れ先の獲得に尽力していただきたい。</p> <p>インターンシップにおいては、インターンシップの受け入れ企業の開拓はもちろん学生の適合性を見極めることも重要だと感じている。</p>

7 学生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-35 学生募集活動は、適正 に行われているか	3.4	本校は、京都府専修学校各種学校協会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO入試等)を遵守している。 また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。 さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。	学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。	学納金は妥当なものとなっているか。保護者の感覚では正直とても高額に感じる。
	7-36 学生募集活動において、教育成果は正確に 伝えられているか		広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。 これらすべての広報活動等において収集した個人情報・出願・新入生の個人情報等本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。	広報活動では「目標・目的を明確にしてもらう」ことを強化している。本校は専門就職を果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前に職業イメージがどれだけ明確になっているかが大切と考え、体験入学や説明会への複数回参加を促し、充分に理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。	教材費については、医学関係書籍は高額であるため、たくさんの教材を買わせても学生がすべて目を通せるものでもないため、極力厳選し、効率よく学生が使用できるよう配慮していただきたい。 学生募集活動は保護者として参加させて頂きましたが、とても楽しく良かった。 良い学生さん、前向きな学生さんに入学して頂くために積極的なオープンキャンパス・広報活動などしっかりと実施されており、また高等学校へのご挨拶などご努力をされていると感じている。 パンフレットなどに関しても、入学後の生活に関する部分まで多くの情報が掲載され、魅力的な内容となっている。 入学者の約半数が1対1のLINEを活用しているということで、時代に即していると思った。マッチング率が滋慶学園グループの平均より高いのは、たくさんの学科がある京都医健ならではの強みだと思った。KISAなど新しいプログラムを始めることにより、今までと違った募集展開ができ、良い結果に結びついていると感じた。
	7-37 入学選考は、適正かつ 公平な基準に基づき行 われているか		入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考判定会議」により、可否を決定する。 なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」「筆記試験」「小論文」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するものである。	教育成果として、高い専門就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、事務局長、広報スタッフ等が常にチェックしている。	入学者の約半数が1対1のLINEを活用しているということ、時代に即していると思った。マッチング率が滋慶学園グループの平均より高いのは、たくさんの学科がある京都医健ならではの強みだと思った。KISAなど新しいプログラムを始めることにより、今までと違った募集展開ができ、良い結果に結びついていると感じた。
	7-38 学納金は妥当なもの となっているか		学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。 保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に途中で追加徴収を行わない。	また本校は、一般社団法人日本プライバシー認証機構「TRUSTe」の国際規格の認証を受けている。	大阪市北部の地震後、「大阪市がLINE社へ協力要請を検討する」との記事が出ていたが、京都医健も情報を早く正確に伝達するために必要に応じてあらゆるツールを使う必要があると思った。 入学時のミスマッチがないように特に面接等を重視し選考するのが、望ましいのではないかと。 「目的意識」を重視されていますが、医療系学科においては基礎的な学力が必要なのは不可欠で、風潮だけで入学を希望することのないようにして頂きたい。 入学者数が前年度の目標値に近いところまで増加していたが、その反面で退学者、留年生の増加という事態に繋がっている。この点については、入学選考の方法の見直しも考慮されるべきではと考える。 入学選考についての基準はもう少しハードルを上げることもマッチング率につながるのではないかと。なんとなく受けてなんとなく入る。そんな学生も何名かはいた。それはその人にも学校にもプラスにはならない。選考時の学生の意気込みを少しシビアに評価してもいいように思う。
8 財 務	8-39 中長期的に学校の財 務基盤は安定してい るといえるか	3.8	財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。 その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。 毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。	予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。 ①正確かつ実現可能な予算の作成 予算は短期的、中長期的の2種類がある。短期的は次期1年間のもの、中長期的は2～5年間のものである。 当学校法人及び学校では、短期的と中長期的の両方を事業計画書として作成し、短期的視野と中長期的視野の2つの観点から予算編成している。 短期的な予算編成は当年度の実績を基礎に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものと乖離した場合はそれを修正する必要がある。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。 これにより、短期的にも中長期的にも正確かつ実現可能な予算編成を組むことができる。	財務や予算収支計画など詳細は保護者には分かりづらい。 学生負担が過大にならないようお願いしたい。 収支計画も実現可能な無理のない理想的な考え方である。 財務基盤や予算収支計画が行われており、健全な学校運営がなされている。 有効・妥当・適正に行われていると感じている。 同種専門学校に比べると適正かつ高いレベルでの定員充足率ではあるが、受験者数が定員を大きく上回りその中から優秀な人材をチョイスできる環境が望ましい。 短期的な予算案だけでなく、中長期的な予算計画を持って安定した運営をして頂きたい。 今後について考えると10年後は理学療法科の財務計画はいかにと考えます。夜間部をどうするのかも検討が必要である。 財源については厳しいなどということも聞いていないし、毎年新たな取り組みが出来ているのは、そこがしっかりしているからだと思う。
	8-40 予算・収支計画は有効 かつ妥当なものとな っているか		5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実的に即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていると考えている。	②①のための体制作り ①のように実現可能な予算作成するためには、その体制作りが必要になる。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る。作成した決算書、事業報告書については、情報公開の対象となり、利害関係者の閲覧に供することとなる。	同種専門学校に比べると適正かつ高いレベルでの定員充足率ではあるが、受験者数が定員を大きく上回りその中から優秀な人材をチョイスできる環境が望ましい。 短期的な予算案だけでなく、中長期的な予算計画を持って安定した運営をして頂きたい。 今後について考えると10年後は理学療法科の財務計画はいかにと考えます。夜間部をどうするのかも検討が必要である。 財源については厳しいなどということも聞いていないし、毎年新たな取り組みが出来ているのは、そこがしっかりしているからだと思う。
	8-41 財務について会計監 査が適正に行われて いるか		会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。		学生数により財務状況は左右されるものと思われるが、状況に合わせて柔軟に対応できる体制作りがなされているものと思われる。無理な支出が増えないよう、今後も運営状況に合わせた見直しや適切な修正をお願いしたい。
	8-42 財務情報公開の体制 整備はできているか		平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在に至っているため、財務情報公開の体制は整っている。		

9 法令等の遵守	9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.9	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会が学校運営が適切かどうかを判断している。	3つ教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業人教育を通して社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼（「業界の信頼」、「高等学校の信頼」、「学生・保護者の信頼」、「地域の信頼」）を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。	法令・設置基準等の遵守と運営はなされていると認識している。 学校のコンプライアンス厳守というのは徹底していると思う。学生には職業人としてのモラル教育をお願いしたい。 ITリテラシー教育は今後ますます重要かつ高度な内容になってくると思うので、継続して行って頂きたい。 ITリテラシー教育大変かと思いますが、怠ると大変な事になるかと思う。
	9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。 また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。	具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。	コンプライアンスは法人の運営者、教育者共に共通認識で理解して頂かなくてはなりません。マニュアルより理解力です。この点をよく検討してほしい。 体罰、セクハラ、パワハラ等、コンプライアンスが強く叫ばれる今日の社会情勢の折、相談窓口の設置は必須である。事象が起こってからの事後対応では今まで積み上げてきた「4つの信頼」がもろくも崩れてしまうことになる。
	9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか		(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)	方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。	新しい試みとしてSNSの活用を学生募集や学生のフォローアップに利用されているが、個人情報の遵守に関して職員のみならず、学生をはじめとする利用者に対するアナウンスも徹底していただきたい。 法令等の遵守を行う為の組織体、システム管理がしっかり行われていて素晴らしい。
9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか	滋慶学園グループのスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。	また、監事による毎年の監査に際しては、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。 今後は、コンプライアンス相談窓口の設置が必須であると考えます。	特に医療現場では、守秘義務に対する意識が求められますので、貴校の取り組みは大切なことだと思う。		
10 社会貢献	10-47 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3.7	本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高等学校の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼)というコンセプトがある。  この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。  業界企業や団体、あるいは中・高等学校等の教育機関とタイアップして行う各種教育関連イベント・スポーツイベント・障害者イベント・市民イベント・授業支援等を通じ「業界の信頼」、「地域の信頼」「高等学校からの信頼」を獲得し、社会貢献に繋がっていると考える。 H29年度は「中・高等学校への授業支援」「視覚障がい者施設ライトハウスでの各種ボランティア」「三条小川デイサービスメイクセラピー」「明倫地区すこやか健康教室」「小児セラピー」等を実施した。	本校では、左記に記入したように、教職員及びび学生が「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高等学校の信頼」、「学生・保護者の信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得し、それによって社会貢献を果たすということを常に意識して様々な活動を行っている。  今後は、学校の施設やこれまで培った教育ノウハウ等を活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。	祇園祭の時に学校を提供していることは地域に貢献していると思う。 社会貢献の活動は大切ですが、そのためにも人間教育が大切です。この点が出来ていればOKと考えられます。 社会貢献は非常に重要な項目の一つであると考えます。4つの信頼にプラスして信頼の5番目として対象者への信頼(各学科により異なると思います)を考えて頂き、その達成もまた大きな社会貢献につながっていくかと思う。  地域の人へたくさん学校を知ってもらい使ってもらいたいが、それに伴う警備体制も重要になってくると思う。 学生が業界団体の講習会に参加するだけでなく、医健スタッフが高校に特別講義をされたり、また地域の行事に参加されたり多彩な活動をされていることに感心した。 医療系の学校としては西洋医学の教育施設(医科大学他)との交流をもっと深め、大学内の知識を取り入れられないか？ 3つの信頼の中で、「業界の信頼」は卒後の資格を有効に活用すること、就職率にも大きく関わってくる事かと思えます。業界団体との接点をできるだけたくさん持つことが学生さんの意識改革に繋がることになっているかと思えますので今後も活動を続けて頂きたいです。 また、地域との信頼と貢献という事で開催されている“お灸教室”のような活動は、地道ながらも地域の方の学校に対する理解を深めると共に入学希望者獲得にも繋がっていくものと期待している。 各方面へのボランティア参加は、学生の教育のみならず、職種の認知を広める意味でも有効である。 今後、子ども達(小学生・中学生)が各業界の仕事の内容ややりがいを知り、興味を持ってくれるような職業体験などが出来れば良いと思う。 それぞれの分野でのトップのレベルを持つ教員の方々が地域でのイベントに参加することで学生さんも仕事のイメージを持ちやすくなるのでは思う。 同じスポーツ関係団体として、今後とも様々な施策について情報共有しながらレベルアップしていきたい。 各業界団体の委員会、勉強会等で教室利用をさせて頂けるのは大変ありがたい。
	10-48 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか		さらに、滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動の一環として京都医健でも展開している節電、冷房温度28度設定、暖房温度20度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも高い評価を頂戴し、「学生・保護者の信頼」を獲得し、これも社会貢献に繋がっていると考える。  以上のように、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。		